

別 記

様式第1号(第8条、第9条、第12条関係)

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2024年 7月 22日

(宛先)

滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)

滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)

日本電気硝子株式会社

代表取締役社長 社長執行役員 岸本 暁

(代理人) 能登川事業場長 谷波 正巳

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項・第25条第4項

第27条第1項→第27条第2項において準用する同条例

第26条第1項

第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項

の規定に基づき、
事業者行動計画を 策定 (変更)
事業者行動報告書を作成

したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	日本電気硝子株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 岸本 暁
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	滋賀県大津市晴嵐二丁目7番1号

1 事業所の概要

事業所の名称	日本電気硝子株式会社 能登川事業場					
事業所の所在地	滋賀県東近江市今町906番地					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	2	1	1	9	※ 産業分類・細分類名称を記載 その他のガラス・同製品製造業
事業の概要	医化学用ガラスや超耐熱ガラスをはじめとする特殊ガラスの製造					
従業員の数	1295	人	操業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	☒ 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者					
	☒ 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	☐ 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	7	台	熱源設備	台	照明設備 台
	コンプレッサ	11	台	空気調和設備	台	その他 ガラス溶融炉 20基

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2024	年度	報告対象年度	年度
	終了年度	2026	年度		

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

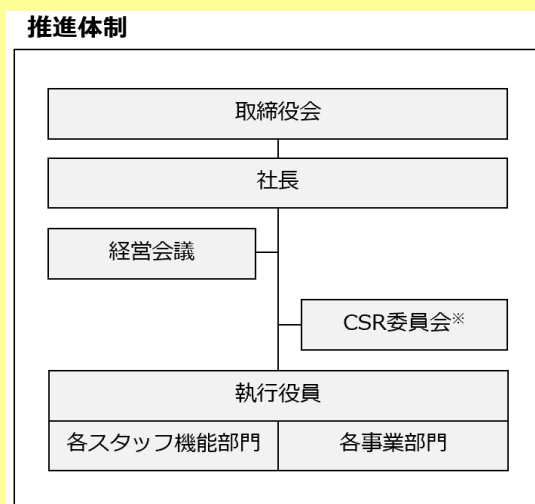
当社は、大切にしている価値観として「自然との共生」を掲げ、「世界一効率の高いモノづくりこそが、世界一環境にやさしいモノづくりにつながる」との考えのもと、品質や歩留まりの向上を通じて省エネルギーやCO₂排出削減に取り組んできました。また、2021年11月に気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言への賛同を表明し、気候変動が事業にもたらすリスクと機会を分析し、財務面への影響とその対応を皆さまにお伝えできるよう取り組んできました。

今日、気候変動への対応が地球規模の重要課題となる中、今後も持続可能なモノづくりを追求するとともに、気候変動に的確に対応するため、2022年2月にCO₂排出量削減目標(Scope1+2)の設定と2050年までのカーボンニュートラル達成を公表し、全電気溶融設備の水平展開や省エネ設備への切り替え、再生可能エネルギーへの投資等、野心的な施策を推進しています。また、Scope3についても排出量算定のための仕組みづくり等、情報開示の充実に向けた取り組みを進めています。

今後も継続的に分析を行い、情報開示の充実を図るとともに、カーボンニュートラル実行計画を着実に遂行してまいります。

2 取組の推進体制

気候関連リスクと機会を含むCSRに関する当社のガバナンス体制は下図のとおりです。



*CSR委員会:気候関連を含むCSRの方向性や活動内容等について包括的に議論し、機動的に活動を展開する目的で設置

3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

ガラス製造は溶融に多くのエネルギーを使用するため、溶融炉の省エネルギー対策として、酸素燃焼炉の導入、ガラス溶融炉の燃料転換、溶融エネルギーの電力比率向上を進めてきました。さらにCO₂排出量の削減目標を達成するために、当社グループでは「カーボンニュートラル実行計画」を策定し、下表の事項を中心にさまざまな取り組みを行っています。各取り組みにより2030年に所期の目標を達成し、その後も2050年までのカーボンニュートラル達成に向けて改善活動を推進していきます。

区分	取り組み事項
製造プロセス	全電気溶融の推進、溶融の高効率化
	省エネ設備への切り替え
	成形/加工設備の技術改良/電化
	操業の自動化/最適化
ユーティリティ設備	高効率設備への更新
	設備の最適化
	運転の最適化
技術開発	CO ₂ フリー燃料(水素等)の燃焼技術開発
調達	再生可能エネルギーへの投資や調達

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	老朽化した硝子溶融炉停止で高効率硝子溶融炉への更新によるエネルギー削減	2022年4月～2025年3月	
2	設備導入	老朽化した硝子溶融設備の停止、高効率設備への転換によるエネルギー削減	2024年4月～2027年3月	
3	プロセス改善	硝子溶融炉の熱効率改善	2024年4月～2025年3月	
4	設備導入	照明器具をLED化によるエネルギー削減	2023年4月～2025年3月	
5	設備導入	高効率モーターへの更新によるエネルギー削減	2023年4月～2026年3月	

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
1. ガラス繊維事業部において、ガラス溶融炉のCO₂排出量原単位(t-CO₂/t-Glass)を同一生産量時実績比で0.5%削減目標を立てて取り組んでいます。 2. ディスプレイ事業部において、CO₂排出量原単位(t-CO₂/万m²)を2024年末に32.0ton/万m²以下にすることを目標に取り組んでいます。 3. 電子部品事業本部において、溶融時のエネルギー原単位削減に取り組んでいます。	

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	107,846					
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	197,154					
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	184,266					
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	12,888					
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移		2.757					

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	全社にてバーチャルPPAの非FIT非化石証書購入	2024年～	
2	高月事業場にて太陽光発電設備導入による再生可能エネルギーの利用(1,000kw)	2024年～	
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	全電気溶融を推進し、ガラス溶融を高効率化し、使用する電力を段階的に再生可能エネルギーに転換することでCO2排出削減を目指しています。
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0					
上記のうち自家消費量	kWh	0					

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO₂ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
①テレビやモニター、スマートフォンなどに使われるガラス基板を製造しています。 ②自動車の金属部品の代替品であるガラス繊維強化プラスチックに使用されるガラス繊維を製造しています。	
	CO₂削減貢献量 t-CO₂

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方

①ガラス基板を薄型化することで、テレビやモニター、スマートフォンなどの単位面積当たりのガラス基板製造に伴うCO2排出量を減少させることができます。

②自動車の金属部品に取って代わり、ガラス繊維が使用されたガラス繊維強化プラスチック部品を採用することで自動車の軽量化を図ることができ、それは低燃費化につながり、走行時のCO2排出量を減少させることができます。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO₂削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価	
CO ₂ 削減貢献量の算出根拠	

7 その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに資する取組

(1) 調整後排出係数に基づく温室効果ガス排出量の推移

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
温室効果ガス 排出量の推移	t-CO ₂	223,592					
エネルギー起源CO ₂ 【調整後排出係数】	t-CO ₂	210,704					
【調整後排出係数】	kg- CO ₂ /kWh	0.434					
特記事項							

(2) クレジット等購入

項目	単位	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
グリーン証書の購 入	t-CO ₂	0					
クレジットの購入	t-CO ₂	100					
特記事項							

(3) 通勤や出張など人の移動および物流における脱炭素化の取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケ ジュール	
1	物流効率 化	荷主として製品等の積載効率向上の推進	2024年～	
2	物流効率 化	荷主として製品等の輸送距離の削減	2024年～	
3	物流効率 化	荷主として製品等の輸送で大型車両使用の推 進	2024年～	

(4) 業務で使用する車両の脱炭素化の取組

		計画開始年度 前年度の 保有台数	実績報告				
			()年度	()年度	()年度	()年度	()年度
	保有車両の数	台	8				
	上記のうち 次世代自動車等の 数	台	1				
特記事項							

(5) その他のCO₂ネットゼロ社会づくりに向けた取組等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組内容	実施 スケジュール	
1	その他	ガラス事業固有の固形廃棄物は社内再利用を徹底する ことを基本にリサイクルに着目し、製品販売重量に対する 中間処理及び埋立処分される固形廃棄物の比率を指標 に削減に取り組んでいます。 また、貴重な資源であり、モノ作りのレベルは水の使用量 に表れるという考えから、製品販売重量に対する水の量 の比率を指標に削減に取り組んでいます。	2024年～	
2	その他	工場林、緑地の整備、保全活動の実施。	2024年～	
3	生物多様性	事業場内にある森林は元来の自然を残して作られたもの で、地元鈴鹿山系の潜在自然植生によって、自然林と同 様の環境を作り出し、生物多様性の保全に取り組んでい	2024年～	
4				
5				